

モード Mode Mode は語る

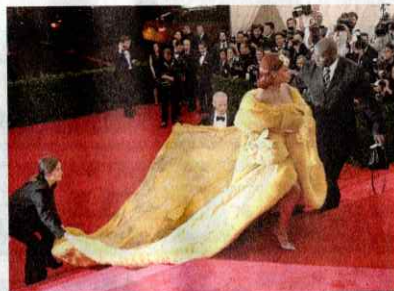
中野 香織

5月第1週のファッションニュースは、ほぼ「メットガラ」で埋め尽くされていた。メットガラとは、毎年5月第1月曜日に、ニューヨークのメトロポリタン美術館で催される祝祭的なパーティーのこと。参加者が払う高額な参加費用は、美術館のコスチューム研究所の資金となる。

主催者は「ヴォーグ」編集長のアナ・ウィンターで、デザイナー、モデル、メディア関係者、各界有名人らが一堂に「見る／見られる」ためにこの場に集結する。年々、レッドカーペットを歩く参加者の装いが派手になり、それにとまって報道や

メットガラ

過熱する祭典の快感



全国公開中の映画「メットガラ
ドレスをまとった美術館」

SNSが過熱していることで、今や、メットガラはアメリカ最大のファッションの祭典として盛り上がるのだ。今回も、今年の展示に関連する

ドレスコード「アヴァンギャルド」を踏まえた個性的な装いが乱舞し、ファッション展の開幕を大々的に知らしめることに成功した。

肝心のファッション展は、「川久保玲／コム・デ・ギャルソン あわいの芸」。川久保玲は、1981年にパリコレクションでデビューし、西洋の美の基準を覆すことで衝撃を与えて以来、世界中から敬意を受ける日本のデザイナーである。「趣味の良さ／悪さ」の境界を曖昧にし、「男／女」の壁を壊し、「服／服でないもの」の線引きも不明瞭にする、自由奔放で攻撃的ですからあるファッ

ションデザインによって私たちに挑発し続けてきた。

デザイナー本人も反骨の人であり、インタビューを嫌い、作品の意味づけも拒絶する。カメラの前でポーズを撮ることほど不本意なことではなく、自分の作品の展覧会を祝うガラにもしぶしぶといった風情で現れ、着飾るゲストにも関心を向けない。

皮肉なことに、この「反メットガラ」の姿勢こそ、メットガラに群れる人々が川久保玲をカリスマとあがめる最大の理由なのである。「メットガラ／反メットガラ」の間に生み出される微妙な空気のずれさえも快感のスパイスとなって、「ファッション／アート」の境界を超えようとする祭典はひとときわ熱を帯びるのだ。
(服飾史家)